【実践事例５】　　11－18「安全教育」　ニュース　No.262

「やっちゃだめより　危ないの体感が大事！」

安全　生活　学級活動

- 実施日　　令和４年９月１５日（木）
- 実施校　　墨田区立第三寺島小学校　３年生
- 講　師　　子どものための危険学…（６人ものスタッフの方が参加してくれました）
- 内　容　　① はさむ、転ぶ、ぶつかる、転倒などについてパワーポイント「読み聞かせ絵本」により学ぶ。
  ② デンジャラスたんけんたいの歌で、危険に気づくことを楽しく踊りながら感じる。
  ③ 「①机と机に挟む」「②平均台の角にぶつける」「③ドアに挟む」「④椅子から転落する」をそれぞれグループに分かれ、粘土や割り箸を使って、はさみ、ぶつける実験をする。
  ④ どうしたら危なくなくなるかなどを振り返り、共有する。

この実践事例は、墨田区の地域コーディネーターの福井弘美さんからの報告です。
現在１０人の地域コーディネーターさんは、各学校の色々な出前授業に立会い、内容を報告して下さったり、地域や学校の状況を伝えて下さったりして、地域と学校の連携のために活動して下さっています。

「それ危ないよ」という内容の歌と踊り・・盛り上がりました。

４グループに分かれて、危険なことを実験。
粘土を使って、とてもわかりやすかった！

【立会いをしての感想】
　スライド、踊り、実験を通して、あきずに楽しく学んでいける内容でした。
みんなが積極的に手を挙げて答えていました。実験は４グループに分かれて、ドアに指を挟む、イスから倒れたら～　かどに頭をぶつける…など粘土で作った手の型、頭の型を使いながら、はさんだらどんな衝撃があるかなど、粘土がつぶれた様子を見ることによって、よく伝わりました。
終了後の感想でも、「まわりをよく見たほうがいい」「ドアはゆっくり閉める」など、危ないよ！ということが子どもたちに良く伝わっていたと思います。

《地域コーディネーター　福井弘美さんからの報告》